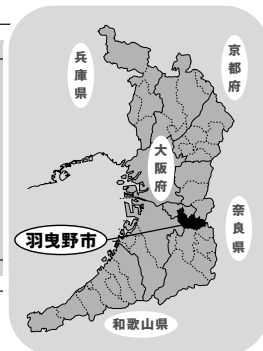


わたしのまちのPR

羽曳野市編



羽曳野市は、大阪府の南東部に位置し、生駒、信貴、金剛、葛城山系に囲まれた河内平野の中にあつて、南部に標高20～80mの羽曳野丘陵があり、中央部を南北に石川が流れています。この地域は古くから栄え、古市古墳群をはじめ数多くの史跡が残っています。こうした歴史遺産に恵まれた環境のもと、昭和34年に、府内23番目の市として市制施行しました。

白鳥陵古墳等の歴史遺産、誉田八幡宮の秋祭りで行われる「お渡り」の儀式などの伝統行事のほか、特産品であるぶどうやいちじくを使用したワイン、ジャムといった地場産業など伝統や文化を受け継いでいます。

また、平成16年に開通した南阪奈道路の側道では、「羽曳野市健康ふれあいの郷事業」として、道の駅機能を備えた広域交流施設の整備を進めています。

この羽曳野市の特徴や強みといった事について、市長公室副理事兼政策推進課長の高崎さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、質問に入らせていただきます。

羽曳野市といいますと、歴史遺産の宝庫というイメージがありますが、これら歴史遺産の見どころといった点について、教えていただけますか。

本日はよろしくお願ひします。羽曳野市は、歴史深いところで、いろいろご紹介したいところがあるのですが、ポイントを絞って説明させていただきます。

この地は、飛鳥時代から大阪と奈良を結ぶ重要な街道であるわが国最初の官道（国道）竹内街道と京

都と高野山を結ぶ東高野街道が交差する交通の要所として栄えてきました。ご質問にありましたように、古市古墳群をはじめ、歴史遺産の非常に多いまちです。その中でも特に紹介したいところは、おうじんりょうこふん 応神陵古墳とやまとたけるのみこと 誉田八幡宮、日本武尊白鳥伝説の白鳥陵古墳です。

順にご説明しますと、まず、応神陵古墳ですが、これは、仁徳天皇の父である15代応神天皇の陵とされており、面積では仁徳陵（堺市）について全国第2位ですが、体積では日本最大といわれています。

また、応神陵古墳の南には、誉田八幡宮が隣接しています。八幡宮とは、八幡大神と呼ばれる応神天皇をお祀りする神社であり、誉田八幡宮は、日本最古の八幡神社といわれています。拝観庫では、みなもとのよりとも きしん 源頼朝の寄進と伝えられる「塵地螺鈿金銅装神輿」ちりじらでんこんどうそうしんよ ※1 や「こんどうすかしほりくらかなく 金銅透彫鞍金具」ちりじらでんこんどうそうしんよ ※2 などの国宝が展示されています。9月の秋祭りには国宝の神輿が応神陵古墳のほり濠を渡る「お渡り」の儀式が行われます。

※1 この神輿は、社殿によると、1196年源頼朝が社殿を造営した際、寄進したものという。現存するものでは最も古いものの一つであり、保存状態もよいので、建築・漆工・金工・染織といった鎌倉初期の美術工芸が結集した神輿として

応神陵古墳



「お渡し」の儀式



貴重である。

- ※2 この鞍金具は、1848年8月、応神陵陪塚の丸山古墳から出土し、菅田八幡宮の宝として伝えられた。もともと鞍橋に打ちつけ、その表面を飾る装飾金具であるが、木の部分は腐朽して金属部分だけ残った。応神天皇・仁徳天皇の時代には、渡来人が多く、その中の鞍作村主くらつくりのすぐりという鞍作りを専業とする氏族が、伸銅・透かし彫り・毛彫り等の技術を伝えた。

白鳥陵古墳には、日本武尊^{※3}の墓であるという言い伝えがあります。日本武尊は、九州の熊襲くまそを攻め

塵地螺鈿金銅装神輿



金銅透彫鞍金具



た後、東国の蝦夷えみしと戦い、その帰途、伊勢で亡くなりました。そのとき日本武尊は白鳥となって、ことひきのはら琴弾原（奈良県御所市）を経て羽曳野市内の古市という地域に飛来し、そこから西方に向け天高く飛び上がって消えたといわれています。これが白鳥伝説で、この伝説から、白鳥が飛び越えた丘のあたりを「羽曳野」というようになったといわれています。

- ※3 日本武尊おうすのみことこと小碓命は、日本神話に登場する英雄。古事記や日本書紀によれば4世紀から7世紀頃の複数の大和の英雄を具現化した架空の人物とされる。

これら以外にも、大王（天皇）級の副葬品が数多く発見されたみねがつか峯ヶ塚古墳をはじめ歴史遺産が数多くあり、市内外の多くの人が訪れ、親しまれています。

そのため、市では、近隣市町村等と連携したウォーキングトレイル事業により、ウォーキングコースをつくりました。コースは、歴史遺産と調和した舗装を施し、要所には、行き先案内の標識を設置するなど、見学者が、多くの歴史遺産を順序だてて見て回ることが出来るように工夫しています。

また、ガイドマップやパンフレットにより、羽曳野市の歴史遺産を美しい写真で、市内外に紹介しているほか、周辺住民の方々も、市民NPOを発足させ、ツアーガイドや遺跡勉強会といった活動を行うなど、豊かな歴史遺産はまちのアイデンティティとなっています。

豊かな歴史遺産が市民をはじめ、多くの人々に親しまれているようですね。

そういえば、羽曳野市には、日本武尊の白鳥伝説にちなんだイベントや絵本があるとお聞きしましたが。

羽曳野市は、地名の由来や、古墳のほか、しらとりじんじゃ白鳥神社や白鳥という地名があるほど白鳥伝説とゆかり深いまちです。

市の青年会議所では、子どもたちに郷土愛を深めてもらおうと、日本武尊をモデルにした絵本「はくちょうおうじ白鳥王子タケルくん」を作成し、配布しています。

また、羽曳野市には、白鳥伝説にちなんだ市民ま

つりの市民フェスティバル白鳥伝説「はびきの祭」があり、毎年大いに盛り上がります。

「はびきの祭」は、子どもの健全育成や、歴史遺産を市民が誇りに感じ、大切に作るきっかけにしたいという思いから、市のほか、青年会議所をはじめとする多数の関係団体が協働して毎年開催しています。

親子で楽しめるコーナーや、創造と工夫によって遊んだ昔遊びの伝承、市民参加のハレルヤ合唱等多彩な内容で、羽曳野市の一大イベントとなっています。

話が変わりますが、羽曳野市といえば、いちじくやぶどうも有名ですね。

羽曳野市は、関西地区最大のいちじく産地として有名で、誉田地区では、いちじく畑が広がっています。

羽曳野市観光協会では、いちじくを使ったいちじくジャムを販売しており、大変好評をいただいております。その昔、いちじくは、うめ・びわとともに家庭三大常備薬とされ、家の庭先によく植えられていました。低カロリーで高ミネラル。果実を乾燥させたものでは漢方で「無花果（むかか）」といい、整腸剤として利用されており、胃腸にたいへんやさしい食品です。

また、羽曳野市の東部の駒ヶ谷地区は、ぶどうの産地として全国的に有名で、急勾配の丘には、見渡す限りのぶどう園が広がっています。丘の上には、ぶどう園に囲まれた「グレープヒルスポーツ公園」があり、市民の憩いの場となっています。さらに丘をのぼり、そこから一望できる大阪平野の景色は絶景です。

近年では、ぶどうの販売のほかに、ワイン製造も盛んに行われています。

他に、羽曳野市で特徴的な取組は。

羽曳野市では、平成13年に、市民に生きがいを探求する生涯学習の場を提供するため、「はびきの市民大学」を開校しました。

はびきの市民大学では、専門家や研究者のほか、市内在住の有識者の方を講師として招き、人文・社会・自然科学などの講座をはじめ、日常生活に密着した内容や羽曳野市の地域・文化を全般に研究する「はびき

の学」などのユニークな講座を開いています。

前期は4月～9月、後期は10月～3月の期間で、所定の科目を修めた場合には、『はびきの市民大学学士』の学位記を授与します。近隣の大学と連携して設置した講座の中には、本当の大学の単位認定が可能なものもあります。

その他、さまざまな学習に関する情報や案内を提供できるように資料を揃えているほか、社会人入学等に関する相談窓口も設置しています。

老若男女問わず様々な方が受講されており、熱心に授業をきいています。

また、受講生の方の多くは、羽曳野の地域・文化を学ぶことにより、まちへの愛着を深め、環境美化運動など、様々な取組に積極的に参加されています。

なるほど。市民の皆さんが学位記を目指して熱心に勉強され、楽しまれている様子が伺えますね。

ところで、今、羽曳野市が一番力を入れている取組は何ですか。

「平成の竹内街道」といわれる南阪奈道路が一昨年、開通したことに伴い、その周辺に道の駅機能を備えた広域交流施設を整備する「羽曳野市健康ふれあいの郷事業」に力を入れています。

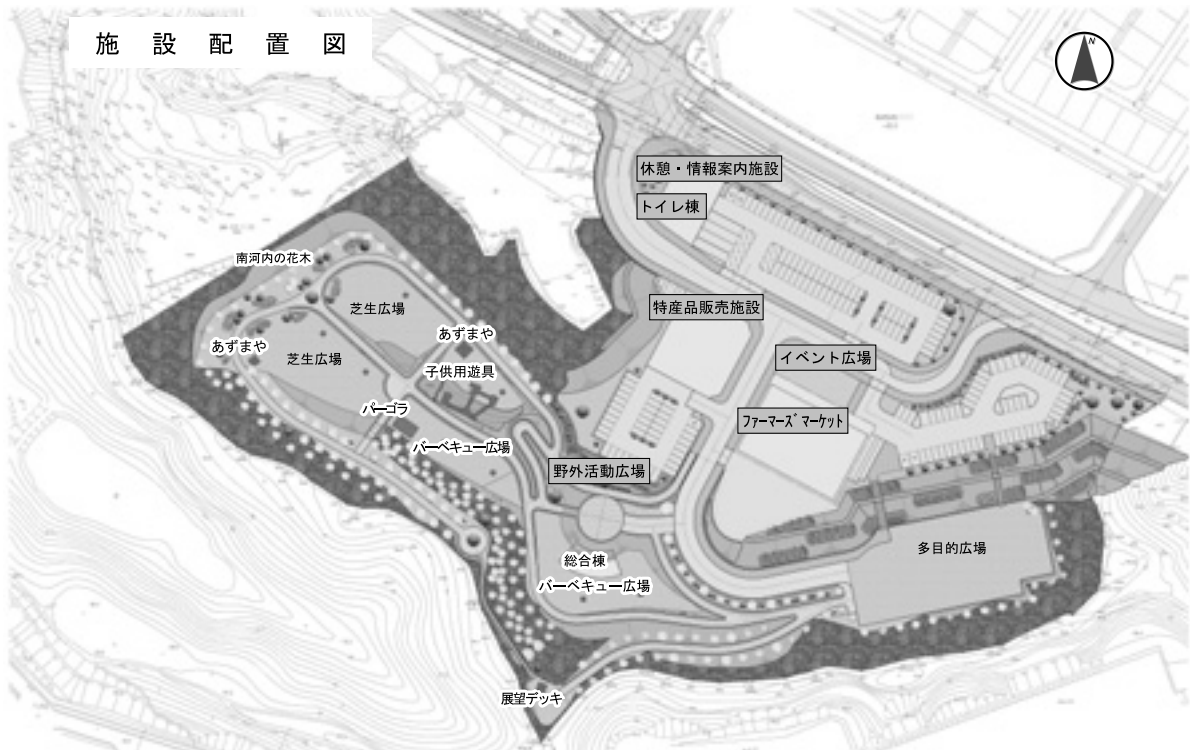
現在、年間365万人の観光客が、南河内地域へ訪れていますが、南阪奈道路の完成により、アクセスが向上したことで、今後、更なる増加が見込まれます。

そこで、羽曳野市をはじめ南河内地域の歴史文化や豊かな自然、地場産業など、地域の魅力を発信していくため、「羽曳野市健康ふれあいの郷事業」として、南阪奈道路の側道沿いの立地特性を活かした広域交流施設の整備を決定しました。

この施設では、「休憩・情報提供施設」、「地域振興施設」、「スポーツ・レクリエーション施設」という3つのエリアを計画しています。

1つ目の「休憩・情報提供施設」では、イベント広場を整備し、休憩やミニイベント等に活用するとともに、情報コーナーにパソコン端末等を設置し、多くの人に道路情報や周辺観光情報を発信していく予定です。

2つ目の「地域振興施設」については、ファーマ



ーズマーケットと特産品販売施設を設置します。

ファーマーズマーケットはJ A大阪南が主体となる大型の農産物特売所で、バーコードによる出荷者別、品目別、時間帯別の情報管理のもと、地域の新鮮な農特産物を販売し、生産者・消費者の顔の見える交流を行っていく予定です。

特産品販売施設は、商工会が整備主体となり運営するもので、羽曳野市の特産品であるいちじく、ぶどうをはじめ、ハム・ソーセージ、梅などの加工品の販売も行います。

3つ目の「スポーツ・レクリエーション施設」については、丘陵地形を活かし、眺望を楽しめるような野外活動広場を整備し、余暇の充実や、健康づくりのための施設として憩いとやすらぎの場を提供する予定です。

この健康ふれあいの郷事業は、エリアの一部に、J A大阪南や商工会が参加するなど、行政と地域の産業振興団体とのパートナーシップのもと、施設の整備から管理に至るまで、役割分担しながら連携して進めていくもので、羽曳野市では今までなかった初の取組スタイルになります。

この施設の愛称は、市民公募の結果、「しらとりの郷・羽曳野」に決まり、平成19年6月のオープン

目指しています。

今後、市民をはじめ、この施設を訪れる皆さんに愛され利用していただけることを目標に、「道の駅」の登録を目指していきます。オープンした際はぜひお越しください。

オープンが待ち遠しいですね。
最後に、今後の羽曳野市の方向性についてお聞かせ下さい。

今年4月に、第5次羽曳野市総合基本計画がスタートし、次代の羽曳野がめざす将来像を『人・時をつなぐ 安心・健康・躍動都市 はびきの』と決めました。

この総合基本計画に基づき、豊かな自然環境や歴史遺産を保全・活用しながら郷土愛を醸成しつつ、後世に継承していく中で、「人のつながり」、「時のつながり」を大切にしながら新しいまちづくりを展開していきます。

これからも、歴史遺産を有効に活用しながら、しらとりの郷・羽曳野をはじめ、魅力あるまちづくりが進められることを期待しています。
本日はお忙しい中、ありがとうございました。